

都道府県別賞一等

安心できる未来のために

愛媛県 西条市立東予東中学校 三学年

西山 鈴夏

先日、母との会話の中で、もしかしたらもう一人兄弟がいたかもしれないかった、という事実を知った。母は、私が幼い頃、『胞状奇胎』という異常妊娠で手術をしたことがあるそうだ。

調べてみると胞状奇胎とは、染色体異常が原因で妊娠の継続はできないとあった。二〜三回の手術が必要で、じゅう毛ガンになるリスクが高まるとも書いてあった。

母も二度、手術をしたそうだ。赤ちゃんを授かった喜びもつかのま、突然の手術となった母の気持ちはどんなだったのだろう。中学生の私にはまだまだ先のことで想像がつかない。

幸い母の手術は日帰りで済んだようだが、もしこれが長い入院となるとどうなのだろうか。

母は治療費を給付金で払ったそうだ。保険に入っていなかったらすべて自分が支払うことになる。また、急な病気で働けなくなり収入がなくなる。家事ができないため、家族は外食となり生活費がかかる。その頃は小さくてよくわからなかったけれど、母一人が病気になっただけで家の中のお金の事情が全く違ってくるのが、今なら理解できる。

「自分が病気になるなんて思わなかったけど、保険に入っていてよかった。」と母は言った。

「それと、お金の心配はしなくていいからね。」とも言った。

そして、母の病気は、手術後も、違う病気に移行する可能性があり、新しい保険に入ろうとしても保険会社に断られたそうだ。

「病気になると保険に入れないのは辛かった。」

と母は言った。病気になってからでは遅いということがわかった。

誰も自分が病気になるとは思っていないだろう。私も健康で、毎日楽しくて、病気になるなんて想像もつかない。だけど、家族の誰かが、もし病気になったとしたら……。治療費が払えなかったとしたら……。なかなか完治しなかったとしたら……。普段の生活の中で保険料を払うのは大変なことだと母は言う。でもよく考えてみると、いつ何が起るかわからない日常を、保険で備えておくと、安心して日々の生活が送れるということが、母との会話の中でよく

第54回中学生作文コンクール

わかった。

私も家族ができたときには、しっかりとした未来図を描きたい。そして、家族が日々笑顔で暮らせるような生活がしたい。